

第5回南砺市立学校のあり方検討委員会会議録（要点記録）

1. 日 時 令和5年4月26日（水） 午後7時 ～ 午後8時30分

2. 場 所 南砺市役所 別館3階大ホール

3. 出席委員 30名（代理出席1名）

No.	役 職	氏名	所 属	備 考
1	委 員	松山 友之	学識経験者 (富山国際大学子ども育成学部教授)	委員長
2	委 員	齋藤 史朗	学識経験者 (元富山県西部教育事務所長)	副委員長
3	委 員	税光 詩子	学識経験者 (元南砺市教育委員)	
4	委 員	曲師 政隆	小学校長会 (福野小学校長)	
5	委 員	藤井 一哉	中学校長会 (福光中学校長)	代理：瀬戸広美
6	委 員	谷戸 仁美	保育士会 (井波にじいろ保育園長)	
7	委 員	唐嶋 田鶴子	幼稚園代表 (福野青葉幼稚園長)	
8	委 員	大西 正起	南砺市PTA連絡協議会代表	
9	委 員	野村 雄亮	城端地域PTA代表	
10	委 員	浦田 謙太郎	平地域PTA代表	
11	委 員	酒井 堅信	上平地域PTA代表	
12	委 員	南田 哲幸	利賀地域PTA代表	
13	委 員	山崎 賢治	井波地域PTA代表	
14	委 員	金道 真一	井口地域PTA代表	
15	委 員	橋爪 央樹	福野地域PTA代表	
16	委 員	山田 剛	福光地域PTA代表	
17	委 員	松本 久介	城端地域づくり協議会代表	
18	委 員	井沢 信雄	平地域づくり協議会代表	
19	委 員	鉢蟬 圭伸	上平地域づくり協議会代表	
20	委 員	野原 宏史	利賀地域づくり協議会代表	
21	委 員	富田 利通	井波地域づくり協議会代表	
22	委 員	東 康紀	井口地域づくり協議会代表	
23	委 員	伊豆 多都子	福野地域づくり協議会代表	
24	委 員	戸成 博宣	福光地域づくり協議会代表	
25	委 員	大河原 晴子	公募委員	
26	委 員	近川 利行	公募委員	
27	委 員	江川 由貴子	公募委員	
28	委 員	石崎 里果	公募委員	
29	委 員	井上 明世	公募委員	
30	委 員	堀 勉	公募委員	

[事務局員]

教 育 長	松本 謙一	教 育 部 長	笠井 学
教 育 総 務 課 長	氏家 智伸	教 育 総 務 課 副 参 事	山本 佳和
教 育 総 務 課 主 幹	金谷 諭	教 育 総 務 課 主 幹 (学務係長)	山田 浩司

[傍聴人数] 0人

[協議事項等]

1. 委員長あいさつ

2. 報告事項

(1) 第4回学校のあり方検討委員会 各委員の意見まとめ 資料1

(2) 南砺市立学校の建設及び改修年次 資料2

3. 協議事項

(1) 今後の学校のあり方検討の方向性について 資料3

4. 次回協議会の日程 第6回検討委員会 令和5年6月29日(木)

5. 副委員長あいさつ

[会議の概要]

事務局 委員及び事務局員の変更。8名の委員が交代。

○開会

1 委員長あいさつ

(委員長)

今回の委員会で、一步でも二歩でも前に進められたら良い。地域のことから、市全体の話をしていきたい。

2 報告事項

事務局から、(1)及び(2)について資料に基づき報告

(1) 第4回学校のあり方検討委員会 各委員の意見まとめ 資料1

これまでの経過を踏まえて、前回、各委員に発表いただいたご意見を一覧にまとめたもの。

(2) 南砺市立学校の建設及び改修年次 資料2

各学校の普通教室の数を示させていただいた。建設年次及び改修年次を示したもの。普通教室の設定については、当時の児童生徒数に合わせて設定している。

(委員長)

今回、初めての委員もいらっしゃるなので、近い座席の方でフリートークをいただきたい。

— フリートーク —

(D委員)

今年度スタートした特認校制度によりどれくらいの児童生徒の異動があったのか。

(事務局)

制度を利用して異動した人数は22名。そのうち、12名に関しては、部活動等のために住所を移して、既に該当校に通学していた方。それ以外の新たな異動については、実質10名。10名の児童生徒は、全て小学校1年生及び中学校1年生であった。

(D委員)

実質10名の方は、部活動等の理由で異動されたのか、又は、ネガティブな理由で異動されているのか？

(事務局)

少なくともネガティブな理由の方はいなかった。

### 3. 協議事項

(1) 今後の学校のあり方検討の方向性について

資料3

資料3に基づき、今後の学校のあり方検討の方向性についてご説明した。

(事務局)

第4回の委員会では、各委員が考える15年後の、南砺市の学校のあり方について、意見発表していただいた。今回は、検討の時期及び手法について議論をしていただきたいと考えている。

資料5「これまでの経緯及び今後の見通しの案」について、改めて説明する。

①平成21年に平中学校が開校し、平成26年に上平小学校が開校した。令和3年4月には、井口地域において、南砺つばき学舎が開校し、現在は、利賀地域の義務教育学校が、令和6年4月の開校に向けて準備をしている。

⑦ これまで、学校を統合するか、または、義務教育学校にするかは、地域の意向を最優先に進めてきている。

② 平成28年に策定された第二次南砺市公共施設再編計画では、8地域に学校を維持するという方針が、打ち出された。

③ その間に教育委員会では、小中連携を推進し、地域を基盤とした小中一貫教育を開始した。

④ 令和元年の公共施設再編計画検討委員会では、市内公共施設の面積を1/2にするために、市内小学校は4校、中学校を2校とする案が出された。

⑤ 令和3年1月の第一期南砺市学校のあり方検討委員会から、全ての学校が単級となった時点で、全ての地域に義務教育学校を残すという提言がなされた。ただし、保護者の要望、地域の同意により統合も可能であると同時に示している。

⑥ 第二次南砺市公共施設再編計画改訂版では、最終的に、この第二期南砺市学校のあ

り方検討委員会で協議された結果が反映されることになった。公共施設の面積 1/2 削減に縛られる事にはなっていないということ。

⑧ 昨年度から、この第二期南砺市学校のあり方検討委員会を設置し、協議を重ねている。

⑨ 今後の学校統合、義務教育学校化を進める前提として、新築などはせず、既存の施設を利用することを前提としている。

⑩ 利賀地域では、利賀地域義務教育学校設置協議会を立ち上げ、来年4月の開校に向けて、現在準備を進めているところ。

⑪ 平・上平地域では、令和5年度から、上平小学校に複式学級が出来た。教育委員会では、2キャンパス制の義務教育学校の設置を提案している。今後、地元からの要望があれば、義務教育学校化の検討を開始する。

⑫ 令和11年に福光南部小学校に複式学級が出来た。その5年前となる令和6年度に、福光地域全体の将来の学校のあり方検討委員会を設置し、協議を開始したいと考えている。

⑬ 令和15年には、城端の小学校及び中学校が全学年単級となる。その5年前となる令和10年度に、城端地域全体の将来の学校のあり方検討委員会を設置し、協議を開始したいと考えている。

⑭ 令和17年には、井波の小学校及び中学校が全学年単級となる。その5年前となる令和12年度に、井波地域全体の将来の学校のあり方検討委員会を設置し、協議を開始したいと考えている。

⑮ 福野地域でも全学年が単級となれば、協議を開始するが、かなり将来のことであると想定され、その頃には市内全域で、改めて、学校のあり方が見直されると考えている。

このように、各地域において、全学年が単級となるか、又は、複式学級ができる5年前に各地域で設置する検討委員会において、学校統合するか、又は、義務教育学校にするかを検討し、その結果を南砺市学校の在り方検討委員会に諮り、統廃合の方針を決定するのが、現在の委員会の案になっている。

#### (A委員)

これから手法及び議論についてスタートするという方針ではそれで良い。しかし、今の教育委員会の、各学校において全学年が単級になった時点から検討を始めるという話は、ありえないと思う。

統廃合を決定するには、まず住民の理解を得なければいけない。次に、議会の了解を得なければいけない。次に、各地域の検討委員会。学校の名前をどうするか？スクールバスをどうするか？全ての住民の賛成を得るのは難しいとしても、最低でも5年かかると見込んでいる。資料5にあるように各地域単級化の5年前、バラバラな時期に検討していくというのは、間違っている。中学校はある学年が単式になったら議論を始めるべきだと思う。

第4回の委員会で、各委員から、利賀、平、上平、井口からは、小規模校でも残してほしいといった発言があったことは事実。ただし、ほかの委員は、中学校の統廃合止むなしという意見が圧倒的に多かったと私は記憶している。だから、もう議論を始めなければならぬ。令和5年度から、中学校の在り方について、本気で議論を始めて、方針を決めて

いかなければならない。井波と城端を統合すればという意見もあるが、井波はまだ単級にならないからいいと言っていたら、話が前に進まない。やはり、学校統合の方針を市が決めるべきだと思う。

第一期のあり方検討会の議論を踏まえて、各地域の小中一貫教育・義務教育学校を基盤としながら、皆さんが、統廃合のほうが良いのなら、それでも良いと書かれている。しかし、地域にすべて小中学校を残すということが、もうあり得ないと分かってきたわけだから、こういうことを書くという意味が分からない。なので、学校ごとに全学年が単式になったら議論を始めるのは、私は間違いだと思う。

#### (B委員)

私も、地域を基盤とした小中一貫教育と書かれていることには違和感がある。

色々な方と意見交換しているが、保護者は、子供にとって、一番良い環境がどうかっていうのを一番気にされていて、通学距離よりも、学校の状況がどうか、先生の対応、友達関係を一番気にされているので、この検討委員会の場に、先生や保護者の意見が、検討材料としてあったら良いと思う。

「地域を基盤とした」というのは、これまでの旧町村のことを言われていると思うが、学校と地域は切り分けて、いろんな大人と関われる環境があればそれで良いのではないかと思う。

#### (A委員)

南砺市に合併してからもう15年以上が経過している。南砺市は、山村を抱えた特殊な合併をしているので、山間部については、小中一貫教育について強い要望があれば、反対するつもりは無い。

遡って、その前の平と上平地域が小中学校統合したときに、一か所にまとめきれなかった。お互いに配慮しあって、上平には小学校、平には中学校を分けて作った。これだけ子供が減ることが想定できなかったから、その時の判断はそれで良かったと思っている。

今から各地域に小中学校を残すと言っても、小学校と中学校がバラバラでは、義務教育学校にならない。井口は行政区だったから、そこに学校が無くなるのは可愛そうみたいな発想で、今の地域に学校に残すという議論が先走り、井口に義務教育学校をつくった。このままいけば、子供が何人になるかは表を見れば明らか。

だから、その反省を生かして、何のために合併したのか、子供たち最優先で、部活が存続できる最低限の中学校を早急に議論して、3クラスある学校を作ってしまえば何の心配もいらない。それを、各地域に残すということを言うから、特認校制度や拠点校化などという話が出てきている。これが、今、南砺市に起きている混乱の原因だと思っている。

城端が、学校のあり方検討の最初のターゲットになるが、統廃合止むなしと思っている。市町村合併の意味を考えて、平・上平、井口の今の状況を考えれば、地域に学校を残すという記載が出てくること自体がおかしいと考えている。

#### (C委員)

上平・平では、各地域に1校ずつ残してくれと言われる地域の方もおられるし、統合して1校でも良いつて保護者の方もおられる。温度差があり、まとめるには5年はかかるので、検討委員会を立ち上げるのは遅いと思っている。私は、保護者の数が減ると、行事をするにしてもこれからは大変だという想いがあるので、義務教育学校ひとつで良いのではないかと思っているが、それを踏まえて、地域との温度差を埋めていく必要があると思っている。

#### (D委員)

前回、今後中学校は統合を進めたほうがよいと発言した。昨年、P T A執行部内で、部活動の拠点校化、特認校制度などについて議論をしたが、その中で、平野部の中学校については、統合を進めたほうが良いという意見が統一の意見となったので、福地域P T Aの意見として発言した。中学校については、統合を視野に入れて、議論を進めていっていただきたいと思っている。

#### (E委員)

私は、部活動指導やスポーツ少年団で指導をしている中で、学校の在り方について、保護者の意見を聞くこともあるが、私の周りには、城端に学校がなくても良いと言う保護者は一人もいない。なぜ井波や福光にいかなければいけないのか？中学校までは、徒歩や自転車で、自分の足で通学してほしいという意見である。

色々な意見があるとは思いますが、私の娘は「中学校の無い地域に住みたくない。」と言っている。中学校が無くなったときに、その地域がどうなるかと考えたときに、南砺市に、中学が1つか2つで果たして本当に良いのかと思う。

また、例えば、野球部とソフトテニス部が無くなれば、総合型地域スポーツクラブの収入も200万円減る。そういったことも踏まえて議論していかないといけない。ここにいる委員の高めの年齢層と私の娘のような育児世代では、あまりにも意見の隔たりがあると感じる。

#### (C委員)

今後の義務教育学校検討の流れはどうか。地域のほうから、一度、話をまとめたということなのか、市から協議会を設置するよう地域へ投げかけるのか。

#### (事務局)

中学校区ごとに地域の方々が、主体となった委員会を設置することを考えている。

#### (A委員)

市が方針を決めないと議論が始まらない。



(C委員)

平・上平小中学校のPTAに教育委員会に来ていただいて説明会を開いたが、保護者の中でも意見が割れてまとまらない。地域で検討委員会をとるのは難しい。PTA保護者でまとめるのも難しい。

(副委員長)

今のご意見は、白紙から議論を始めるのは難しい。教育委員会から提案をいただいて、それをもとに議論したいということによろしいか。

(C委員)

一応 教育委員会からは、2キャンパス制の義務教育学校の案はもらったのだが、それでもまとまらない。平・上平でもまとまらないし、地域づくり協議会が主導なのか、保護者が主導なのか、それも決まっていない。もう少し地域ごとに話をさせてもらわないと難しい。

(委員長)

今の意見は、もう少し地域ごとの話をしたいということによろしいか。

(C委員)

そうですね。でもこれも私個人の意見なので・・・。

(委員長)

今回は、全体の会議になるので、今のご意見については、この後の議論の中で、検討させてもらうということによろしいか。保護者や先生のご意見も聞かなければならないというご意見があった。

ほかにも、こんなことも考えないといけないのではないかというご意見など無いかな？

(B委員)

意見が割れるのは当然だと思う。こうなったらこうだ、というような検討材料が足りていないのではないかな。子供たちの教育環境という意味で、学校がどういう目的を果たしたいというところが、おそらく一致しないために、学校の設置の状況でのメリット・デメリットに振り回されて、意見が割れていると思う。南砺市全体として、子供たちをどうふうに育てるために、こういう学校が必要だということをはっきりさせないといけない。

(F委員)

PTAで保護者の意見は聞いているが、子供たちの意見を聞いていなかったなと反省しているところ。

この後の会の進め方として、もともと8回程度の会で意見をまとめましょうということだった。今まで4回開催されて、なかなか議論が進まないと感じているところだが、どういう議論がされていなくて、こういう議論がされているといったピースを埋めていって、といったみなさんのコンセンサスがとれば、もう少し建設的な議論が出来るのではないか。

#### (G委員)

これからの提言(案)は、当初から比べるとだいぶブラッシュアップされて来ていると感じる。特に福光地域については、令和6年から検討を開始すると書いていただいたのは、ありがたい。福光南部小学校の複式化に向けて、吉江中学校と福光中学校の議論は関連があって、小さな地域が始めるときに大きな枠で議論を始めないと、5年たつと中学生は卒業し、小学1年生は6年生になるので、親の世代が代わってしまうのは、すごく大きな問題である。小さいところに合わせて早急に議論を始めないといけない。

#### (委員長)

話合いの開始時期も含めて、もっと早くやらないといけないのではないかというご意見であった。

#### (H委員)

個人的なことを言ったら、やはり小学校は地域にあってほしい。中学校は、いくつかにまとまったほうが良い。しかしその時に、自分の地域には中学校を残してほしいけども、中学校は統合してほしいというのでは駄目だと思う。保護者、子供たち自身が、自分の地域から中学校が無くなっても、他の地域にある中学校へ通学するという想いを聞けないと、決められない。

#### (I委員)

先ほどから、いつまでも地域を基盤と言っていていいのかというご意見もありました。もう合併して15年以上が経ちましたし、市全体で考えればという意見もありましたが、果たしてそれだけで、この学校を統合するという大きな障壁を乗り越えていけるのか。

富山市では水橋の例がありましたが、水橋という地域はもともとスクールバスで簡単に行ける地域なのだろうということと、水橋高校の跡地利用という大きな後押しがあるのだと思っている。それで、あれだけたくさんの中小学校が集まることが出来た。そういう外的な要因があれば、障壁を乗り越えることが出来ると思うが、今、私たちの南砺市は、徐々に首を絞められている感じだと思うので、一度にぱっとそこに線を引いて、乗り越えていくということは厳しい。なので「地域を基盤とした」は外せないのではないか。

#### (J委員)



今年度から委員になったばかりで、今までの議論の経過が分からないのだが。中学校が単級になると不都合というのは、どういうところなのか。

#### (教育長)

単級になると先生が減って、全教科に先生がそろわないというのがある。義務教育学校という考え方が出てきたのは、今の全小学校・中学校に全学年を残すと、市が破産するということがあるから。行政改革で最初に言われたのは、保育園、小中合めて、全部今の半分にしろということだった。今はそれが緩まったとはいえ、今のまま残すのは難しい。全部単級になる5年前と書いたのは、小学校又は中学校のどちらかを義務教育学校にするにしても、入れる教室があるという前提がある。全部2クラスの時に義務教育学校にしても教室が足りなくなる。

#### (J委員)

資料3を初めて拝見して、違和感があるのは、さきほどから他の委員のご意見もありましたが、基本が地域ならば、統合の可能性はないのではないかと。なので、前提となる考え方を枠組みから外さないと統合の議論は進まないのではないかと思う。

#### (教育長)

その点については、現在の小中一貫教育が基本となる。しかしながら、親が望んで地域の合意があれば、統合しますと明記してあって、絶対に義務教育学校にしなければならないということはない。

#### (J委員)

平中学校が出来て12年で、もう子供がいけないという事態が想定できなかったのかというのがそもそも疑問だが、今後の義務教育学校を考えるにしても、20年先、30年先をシビアに考えていかないと、合併して15年超、地域も大切に、地域にそれぞれ小中学校があるのが理想だが、子供が減る以上どうしようもないことなので、長い目で見て、統合を進めるべき。

#### (K委員)

先ほどから井口の義務教育学校について、悲観的な意見があるように感じるが、原点に帰ると、子供たちにいかに良い教育をさせてあげられるかということ、地域、学校、教育委員会と一緒に話せたことが成果だと思っている。大きな学校だと、こぼれそうな子供でも、井口くらいの学校だと拾ってもらえる、地域で見ってもらえる。それがメリットになる。井口の学校では、将来、どんな大人になるのか、心配していらっしゃるのかもしれないが、成長して、世界で活躍している方もいる。少し心配だと思われるような子も、

先生、地域に拾ってもらって成長している。出来る子は、大きな学校でも小さな学校でも生きていける。ひとりも取り残さないためには、地域や大人が見ていかないと駄目だと思わせてくれたのが、井口に義務教育学校を作っていただいて感謝しているところである。

ただ、井口にも大きな学校に通わせたい保護者もいらっしゃると思うし、その逆もあると思うので、自由に選択できる環境であれば、その子の個性を生かした教育が出来るのではないかと思う。子供たちに何を与えるのかという議論がないと、行き先が違ってくるといふ思いで、話を聞かせていただいていた。

#### (L委員)

自分の地域に本当は学校を残したいが、子供の減り方を見ていけばそうは言っていられないと思う。城端小学校は今年1年生33人 10年間で、50人減っている。南砺市全体として考えていくべきで、統合の話は今から考えていけないといけない。

意見はまとまらないので、主導していくことも必要なのではないか。みんなで子供たちのために考えていきたいと思っている。

#### (M委員)

想定よりも前倒しでこの検討委員会が開かれている。地域に学校がなくなるというのは耐え難いが、急速な少子化に耐えられるのかという状況で、地域、保護者、子供の意見を聞いていたら、まとまらないので、やはり大ナタを振れるのは、教育委員会であって、子供たちのためにこうしましょうということを示すべき。

#### (G委員)

大ナタといいますか、指導力を発揮していただくのは、教育委員会で、そもそも資料3には、その方法をこの中で議論しましょうと書いてあると思うので、どこに落とすところを付けたらよいのかということを、皆さんで議論できたら良いと思う。

#### (委員長)

今日もたくさんのご意見をいただいて、これももとに進め方を相談しながら深めていきたいと思います。

## 4. 次回協議会の日程

### (事務局)

次回第6回の検討委員会は、6月の開催を予定している。(6月29日(木)に決定)

## 5. 副委員長あいさつ

今日の議論なかで、検討を早く進めるべきでないかという意見が多かった。

最終的には、教育委員会にたたき台を出していただいて、この委員会で議論を含めていくしかないのかなと思っている。

以上